

いのちを支え守ること

患者家族から薬の仕事に携わる人へ

NPO法人いのちをバトンタッチする会代表 鈴木中人

第2回

MRとして働くことを心に定める

「MRの使命とは何ですか?」。MRとして働くことが揺れる時代において、あなたはどのように答えるでしょうか。その使命は、いのちを支え守ることに尽きます。そのために、①患者家族の思いを感じる、②MRとして働くことを心に定める、③いのちへの確かな思いのある人づくりを大切にしてほしいと願います。そのことを、「いのち」をキーワードに患者家族の目線から考える3回シリーズの第2回です。

MRはアイデンティティーを見失いかけている?

私は、長女・景子の小児がん発病を機に、20年近く医療と向き合っています。闘病・死別、小児がんの家族会の代表、がん対策基本計画委員、臨床研究審査委員、看護学校での講師などです。

その中で、患者家族にとって、その存在を特に感じられない。それがMRに対する印象でした。

闘病中、ナースステーションを訪れる製薬企業の方を見かけたことはありました。病院の管理ゾーンなどで、黒のスーツに大きなかばんを持つ人たちともすれ違うこともありました。まさに黒子の印象です。

今、製薬企業やMRの方とお話しをすると、たくさんの同じ声を聞くのです。「自分は何者かを実感できない」「これからどう変わってしまうのか不安である」「働く充実感がない」と。MRが、自分のアイデンティティーを見失いかけているので

は?と感じるのです。

このことは、決してMRだけでなく、多くの企業でも起こっています。私は、銀行・電力会社・大手化学会社などで、生きる喜び・働く喜びをテーマにセミナーをしています。同じような指摘を受けます。

まさに、アイデンティークライシスの時代です。自分というものが無い、社会とのつながりを実感できない人は、大きく社会が変化する中では、心が揺らぎ流されていってしまいます。それは、MRも同じです。ぜひ、MRとして働くことを心に定めて、MRとしてのアイデンティティーを確かなものにしてほしいのです。それは、①働く意味を思い深める、②医療チームの一員として、つながりを再認識する、③MRの使命を確信することです。

働く意味を思い深める

私は、デンソーに25年間勤めて、経営企画室次長を最後に早期退職し

ました。いのちを語ることを人生のテーマにしようと思ったからです。でも、無名講師に、講演依頼が来るほど世の中は甘くはありません。仕事がないのです、今週も、来週も。それは、言葉では表せない恐怖を感じます。自分は社会に必要とされていない、このまま忘れられてしまうのではないかと。

そんな時、講演依頼の電話をもらいます。受話器を置いた瞬間、「ありがとうございます」と手を合わせていました。仕事一杯、幸せ一杯を、心底思います。

そして、今、何のために働くのか? 三つの意味があることを実感しています。生活のためにお金を稼ぐ、個性を発揮する、みんなの幸せを実現することです。

お金と個性は、損得・好き嫌いになりがちです。お金と個性だけを働く目的にすると、得なこと、好きなことしかしくなくなります。仕事で言われて一番嬉しい言葉は、「ありがとう」ではないでしょうか。それは

相手のためになっているからこそ、もらえる言葉です。そのとき、自分の仕事に意味があると実感できます。

しかし、仕事は実業です。絶対に結果を出す。泥水をすすっても競争に勝たなくてははいけません。負けたら終わりです。でも、それは手段であって、目的ではありません。みんなの幸せのために、その思いが仲間の心をつなげて、頑張れる。そう思うのです。

医療チームの一員として、 つながりを再認識する

「医師と会える機会が制限されている」「患者家族と向き合えない」「自分たちの居場所がなくなっている」、そんな声をMRの方から伺います。本当にそうでしょうか。目の前の事象は、そうかもしれませんが、もっと大きな視座でみてください。

医療は、専門職が集まり、チームとしてその役割を果たします。医師、看護師、検査技師、薬剤師、MR…。誰一人を欠いても医療は成り立ちません。コンプライアンスやIT技術の進歩などで、つながりの形や方法は変化していきます。

しかし、医療チームの一翼を担うMRが、専門職として、医薬情報を適切に提供し、フィードバックする。それをする限りは、本質的な「つながり」は決してなくなるものではありません。今まで、これからも。

MRの使命を確信する

あの人はプロだ。あなたは、どんな人を思い浮かべますか。スポーツ選手では、イチローや石川遼などでしょうか。勝負強い、知識や経験が豊富である、優れた技術が有る人を、

プロと呼ぶことが多いです。私は、それがプロの第一条件とは考えていません。

プロフェSSIONALと言う言葉が西洋で生まれたとき、医師、法律家、聖職者だけを、そう呼びました。この職業の人は、命を守り、時に絶つことも許されます。誓いをたてて、職に就きました。

いのちを支え守る、いのちへの確かな思いがある人こそ、プロである。そう思うのです。

あなたの仕事は何ですか。そう問われると、〇〇製薬の社員、MRですと多くの人が答えます。それは上着にすぎません。みんな、いのちを支え守る仕事をしているのです。MRは、まさに患者家族のいのちを支え守る「薬」を届けているのです。

その強い思いが仕事への使命感となり、MRとして働く確信になります。MRの使命を果たすために、ぜひ三つのことを心してほしいのです。

①まず確かな技量。MRは医療専門職です。確かな技量なくしては、患者家族の救命はできません。②人間愛。医学は科学、医療は人間愛だと思います。医学は、バイアスの無い事実に基づき行われるものです。でも、科学だけでは、患者家族は癒されません。倫理やコンプライアンスを超えた、人間愛が医療者には必要なのです。③覚悟。医療は、メルヘンの世界ではなく、現実の中にあります。困難、矛盾、葛藤、悲嘆、一人の力だけではどうしようもない壁もあります。それに向き合い、いのちを支え守る使命を果たすためには、覚悟がなければ続けられません。

景子は、余命を宣告された後も、



景子（右下）が憧れていたディズニーランド。薬のおかげで願いが叶った。最後の家族旅行。（筆者は左上）

小学校に入学できました。憧れのディズニーランドに最後の家族旅行もしました（写真）。これは、その10年前なら叶わなかったことです。抗がん剤、抗生剤、白血球を上げる薬…。「薬」がベッドサイドにあったおかげです。MRの方々に、ありがとうの思いで一杯です。

MRは、「薬」を通じて、子どもたち、患者家族のいのちを支え守り、「ありがとう」の思いをもらうことができる、素晴らしい仕事です。ぜひ、その使命を果たしてください。

そのためには、いのちへの確かな思いのある人づくりが重要です。今回は、そのことを考えます。

鈴木中人 NPO法人いのちをバトンタッチする会代表、(株)ライフクリエイイト研究所代表取締役、(株)デンソーに25年勤務。05年に早期退職し、全国の学校・行政で「いのちの授業」や、企業で「いのちの研修」に参加。13万人が講演やセミナーに参加。10月28日にはMR認定センター主催「臨床いのちの講座」の講師を務める。名古屋市立中央看護専門学校非常勤講師、名古屋国立医療センター臨床研究審査委員他 <http://hm7.aitai.ne.jp/~inochi-b/>

